

朝鮮語の格助詞 i/ga の誤用について

永 原 歩

The function and the usage of ガ and 가 *ga*, ヲ and 을 *reul* seem to be corresponding each other in a system of the case particle of Japanese and Korean. However there are differences in actual use, which often leads Japanese-speakers learning Korean to make misuse. In this paper, I discussed the misuse was caused by the difference of sentence structures or by the difference of parts of speech of its predicate by comparing the sentence structures of both languages about the expressions of the desire, ability, and cognitive sentences like わかる *wakaru* and 알다 *alda*, and sentences to express likes and dislikes. Also I tried to find an appropriate teaching plan.

As a result, I found that case particle which indicates object could be marked both ガ and ヲ in Japanese whereas same phenomenon is not seen in Korean sentences. And also comparing with Japanese, even in the expressions of desire, Korean case particles are tended to be used not as free as Japanese ones. Especially, in Japanese sentences that has compound predicate, there can be found both case markers depend on their parts of speech, however Korean sentences tend to be keeping their original case markers. On these reasons, native Japanese-speakers learning Korean make misuses on ガ by interference which should be used as 을 *reul* not 가 *ga* in its sentence.

キーワード：朝鮮語教育，格助詞の誤用，願望表現，可能表現，認知構文

1. はじめに

日本語と朝鮮語の格助詞の用法には大変似た部分が多く、朝鮮語教育の初級の段階では一般的に格助詞を一対一で対応させて提示するという指導方法が行われている。日本語のガ格には格助詞이 i/가 ga¹ が対応し、日本語のガ格と同様に主格や状態・感情の対象を標示することが中心的な用法となっている。

- (1) 형이 동생을 때렸다. (油谷 2006b: 116)

hyeong-i dongsaeng-eul ttaeryeossda.

兄が弟を殴った。

- (2) 머리가 아프다. meori-ga apeuda. (油谷 2006b: 116)

頭が痛い。

しかし、願望表現や可能表現などでは、日本語の中でも対象を表す名詞句についてガ格とヲ格 2 通りの格助詞のゆれが見られる構文があり、さらにこれらの構文は、同様の意味を表す朝鮮語の構文において主に日本語のヲ格に相当する를 reul² をとるという特徴も見られる。このような特徴から、日本語を母語とする学習者は、初級の後半や中級程度の段階に来ると、日本語からの母語干渉と見られる格助詞の誤用を起こしやすくなる³。

本稿では、日本語を母語とする朝鮮語学習者が本来朝鮮語の対格를 reul を用いるべき構文で格助詞가 ga を誤用するような例について、日本語の構文と対照しながらその誤用が構造の違いに起因するものなのか、あるいは品詞の違いによるものなのかを考え、適切な指導案を考察したい。

2. 研究対象となる構文

日本語ではガ格をとり、朝鮮語では対格를 reul を用いる構文には、願望表現、可能表現、認知構文、「好き・嫌い」構文、などがある。これらは大きく分けて、願望表現や日本語の可能表現の一部のように述語の複合構造において格助詞を決定する方法の違いからずれが起これと思われるもの、品詞の違いから格助詞のずれが起これと思われるものに分類することができる。このうち、願望表現については個別言語内でも格助詞のゆれが見られるなど、複雑な様相を見せている。本稿ではこれらの構文を研究対

象とする。

3. 日本語のガ格と「対象」という概念について

本稿で扱う日本語のガ格は、「対象」を表すガ格であるので、ここで「対象」のガ格について整理しておきたい。

日本語の構文の意味役割のなかで「対象」という概念は、ヲ格名詞句にも二格名詞句にも現れ広く用いられている概念であるが、それぞれの格助詞によって「対象」の性質が異なる。

ガ格が対象をとるということについて、時枝(1941)で、「色が赤い」、「川が深い」という文において「色」、「川」はそれぞれ「赤い」、「深い」の主語であるのに対して、「母が恋しい」、「水が欲しい」のような文の「母」、「水」はそれぞれ主語ではないという見解から、このような名詞句を「対象語」、その名詞句につくガ格を「対象語格」とした。この時枝(1941)の見解については、主語と対象語の区別が曖昧な部分があるものの、明らかに主語ではない対象性を帯びた名詞句を主語と区別して扱うという姿勢は、その後広く用いられており、必要な概念であるといえる。

益岡(1987: 107)では、「対象」という意味役割について、「他の意味役割が表す意味的關係以外の関係を広く表すことができる。述語との結びつきが強く、その意味的關係の内容は述語の種類に大きく左右される」としている。つまり、消去法的に他の意味役割に属さない名詞句を対象とみなしているが、その文の中での役割は決して消極的ではないといえるだろう。

朴(1997: 129)では「対象語」という時枝(1941)の用語をそのまま受け入れ、「対象語」をとることができる述語を以下のように提示している。

- (3) 主観的な感情・情緒を表す「欲しい・恋しい・望ましい・怖い・恥ずかしい・恨めしい・懐かしい・好きだ・嫌いだ」などの形容詞・形容動詞。
- (4) 希望を表す助動詞「たい」のついた動詞
- (5) 能力を表す「うまい・まずい・(し)よい・(し)にくい・上手だ・下手だ・得意だ・苦手だ・得手だ・不得手だ」などの形容詞・形容動詞。
- (6) 可能を表す助動詞「れる・られる」のついた動詞、可能動詞お

よび「できる」「わかる」など。

このような述語から、ヲ格が動作の対象を、ニ格が何らかの方向を持った対象を表すのに対して、ガ格は感情や願望・評価といった静的な状態の対象を表していることがわかる。

4. 願望表現

日本語の願望表現は、動詞に助動詞の「たい」がつく形式と、「ほしい」という形容詞によるものがあり、「たい」を用いる構文では動詞が他動詞の場合、補語となる名詞句はガ格をとる場合とヲ格をとる場合がある。

- (7) 新しい洋服が欲しい。(大)
- (8) 君のお母さんの話が聞きたいな。(世界)
- (9) 私はいつもリアルなものだけを書いていたいのだ。(泣かない)

一方朝鮮語の願望表現は、「動詞 + 接続語尾고 go + 補助形容詞싶다 sipda」という形式をとるが、やはり日本語と同様に日本語のガ格とヲ格に当たる格助詞가 ga と를 reul のゆれが見られる。

以下の例(10), (11)のように単文で「먹다 meokda (食べる)」, 「보다 boda (見る)」, 「듣다 deutda (聞く)」, 「알다 alda (知る)」, 「하다 hada (する)」, 「부르다 bureuda (呼ぶ, 歌う)」など比較的他動性が低く、日常生活において身近に使用される動詞が用いられる場合は가 ga が自然であるととられるようだ。

- (10) 비빔밥이 먹고 싶습니다. bibimbap-i meokgo sipseumnida.
ビビンバが食べたいです。
- (11) 어머니가 보고 싶어요. eomeoni-ga bogo sipeoyo.
母が見たいです (に会いたいです)。

しかし、その格助詞の現れ方は日本語とは若干異なる面があり、そのため以下のような誤用が見られる。

(12) 誤 ? 돈이 받고 싶어요. don-i badgo sipeoyo. (学生)

お金がもらいたいです。

正 → 돈을 받고 싶어요. Don-eul badgo sipeoyo.

お金をもらいたいです。

日本語のガ格とヲ格のゆれに関してはいくつかの研究がなされているが、永原 (1999) では、動詞が「食べる」、「飲む」、「言う」、「聞く/聴く」、「見る」、「読む」などのいわゆる他動性が低い、日常の基本的な動作に関する動詞がガ格をとるとしている。これらの動詞は、「たい」と結びつくことによって動作性より願望という状態性が強くなり、動作の対象であるヲ格から状態の対象であるガ格への交替が現れるものと考えられる⁴。

その他の条件としては先行研究から以下のことがわかっている。

- 1) 目的語と述語の間に他の文の成分が入る場合、つまり目的語と述語が隣接していない場合、ガ格をとりにくい。(柴谷 1978, 庵 1995 他)
- 2) 「複合動詞+たい」の場合はガ格をとりにくい。(大江 1973)
- 3) 動詞の目的語の意味役割が「対象」でない場合はガ格をとりにくい。(庵 1995)
- 4) [N + V] の結びつきが強いとヲ格をとりやすい。状態を表す助動詞タイまで含めた [N + V タイ] の結びつきが強い場合にはガ格をとりやすい。(大江 1973 他)
- 5) 動詞の他動性が高い場合はガ格をとりにくい。(庵 1995)
- 6) 漢語動詞が述語になっている場合はガ格をとりにくい。(柴谷 1978, 久野 1973 他)
- 7) 機能動詞の場合はガ格をとりやすい。(大江 1973)
- 8) 慣用句的表現の場合はガ格をとりにくい。(庵 1995)
- 9) 「ああ水が飲みたい」のような「内的感情の直接的表現」ではガ格をとりやすい。(大江 1973)

ただしこれらの条件はあくまでも傾向に過ぎず、日本語の「他動詞+たい」という構文の場合、ガ格かヲ格のどちらかが多少不自然に感じられることはあっても非文と断定できるような文はほとんどない。つまり、格助

詞の許容範囲が緩やかに設定されていて、最終的には話者が事柄を動作中心でとらえるか、状態中心、つまり願望のほうに重きを置いてとらえるかによってガ格とヲ格が選択されると思われる。

朝鮮語の格助詞にゆれについては、上に挙げた条件以外に、例(11)のように「보다 (見る, 会う) boda」が対象を表す名詞句が人間である場合には日本語の「会う」の意味で用いられ, 가 ga をとることがほとんどである。

上に挙げた動詞以外の文では、元その他動詞がとる格助詞을 reul を遵守する傾向が日本語以上に強いようで, 가 ga が現れる文はあまり見当たらない⁶。

- (13) 요즘 나는 그림을 그리고 싶다. (外国)

Yojeom naneun keurim-eul keurigo sipda.

近頃私は絵を描きたい。

- (14) 저녁에 김치찌개를 만들고 싶다.

Jeonyeoke gimchi jjige-reul madeulgo sipda.

夕食にキムチ鍋を作りたい。

- (15) 질문을 더 하고 싶었으나 다른 사람들이 와서 이 장관에게 계속 인사를 하는 바람에... (외국어 64)

jilmun-eul deo hago sipeosseuna dareun saramdeul-i waseo I
janggwang-ege gyesok insa-reul haneun baram-e...

質問をもっとしたかったがほかの人たちが来て李長官に続けて挨拶をしたので...

このように、願望表現については両言語とも格助詞のゆれが見られるが、そのゆれの現れ方が違うために、誤用が起きていると言える。

5. 可能表現

日本語の可能表現については以下の4つが挙げられる。

- ① 自動詞「できる」によるもの
- ② 「漢語+できる」
- ③ 可能動詞「見える」、「聞こえる」など⁶

④ 可能助動詞「れる」「られる」によるもの

このうち、①、③に関しては、自動詞でありヲ格とのゆれはほとんど見られないといえる⁷。

②の「漢語+できる」は漢語動詞「漢語+する」の可能の形であり、他動詞の場合でも対象のガ格をとる例が多く見られる。しかし漢語はそれ自体が動詞の意味を持つためその意味を考慮すると説明が付きやすい。

- (16) 各棟の間には、ゆったりしたスペースがとってあり、各戸につき二台までの車が駐車できるよう計算されていた。

例(16)の文脈においての「駐車」という漢語は動作性より状態性が強いと言える。さらに「できる」はガ格をとることを考えると、この例(16)の名詞句は状態の対象であるためガ格をとると考えられる。

- (17) もちろん、その学生は、その命題の正しいことを立証できないに違いないのだが…(若き)

例(17)の「立証」の場合は「証を立てる」という意味で動作性の意味が強いため、ガ格よりヲ格をとると思われる。

④の可能助動詞による可能表現でも、動作性の意味が強い場合にヲ格を、状態性が強い場合にはガ格をとる。つまり、以下の例(18)のように能力を表す可能表現ではより状態性が強いため、ガ格がとりやすく、例(19)のように状況の中での可能を表す可能表現では動作性がより強く働くためヲ格がとりやすくなるのである。

- (18) リンさんは納豆が食べられますか。[能力可能](文型)

- (19) 誰かに作ってもらった料理を食べられるなんて久しぶりです。
[状況可能](世界)

一方、朝鮮語の可能・不可能表現は「動詞連体形+形式名詞_ㅏ su + 存在詞있다 issda/없다 edpsda」, 不可能「mos + 動詞」という形式をとる。朝鮮語の場合は、日本語の可能表現と異なり元の動詞の格助詞をとる。つ

まり、他動詞の場合は常に日本語のヲ格に相当する를 reul をとり、格助詞のゆれは起こらない。

- (20) 이들은… (中略) …간단한 관광 안내 정도를 할 수 있는 수준이다. (외국어 125)

ideul-eun gandanhan gwangwang annae jeongdo-reul hal su issneun sujunida.

この人たちは…簡単な観光案内くらいができる水準だ。

- (21) 그만큼 말해도 너는 나를 못 믿겠는가? (연)

Keumankeum malhaedo neoneun na-reul mos mikenneunga?

それほど言っても君は私 {を/が} 信じられないのか。

可能表現については、日本語では格助詞のゆれがありガ格をとることも多いのに対して、朝鮮語では他動詞による可能表現では必ずヲ格をとるため、日本語でガ格をとる場合に以下のような誤用が見られる。

- (22) 誤 *너무 비싸서 야채가 못 샅습니다. (学生)

neomu bissaseo yachae-ga mos sassseumnida.

とても高くて野菜が買えませんでした。

正 →야채를 못 샅습니다.

- (23) 誤 *한국어가 조금 말할 수 있었어요. (学生)

hangugeo-ga jogeum malhal su isseosseoyo.

韓国語が少し話せました。

正 →한국어를 조금 말할 수 있었어요.

6. 認知構文「わかる」・「わからない」と「알다 alda」・「모르다 moreuda」

認知を表す「わかる」・「わからない」は、対象のガ格をとる自動詞とその否定形である⁸。

- (24) 私は韓国語がよくわかる。

- (25) 試験の結果がわかる。(広辞苑)

一方「알다」・「모르다」は他動詞として日本語のヲ格に対応する를 reul

をとる。

- (26) 저는 한국어를 압니다. jeo-neun hangugo-**reul** amnida.

私は 韓国語 が わかる。

- (27) 단어를 잘 몰라서 어려웠습니다.

daneo-**reul** jal mollaseo eoryeowosssmnida.

単語 が よくわからなくて 難しかったです。

「알다」・「모르다」は日本語の「わかる」・「わからない」と「知る」・「知らない」の意味にほぼ相当する動詞であるが、「わかる」・「わからない」が自動詞であるのに対して朝鮮語動詞は他動詞であるため、「알다」・「모르다」を「わかる」・「わからない」の意味で用いようとするときに、日本語のガ格からの母語干渉が起こり、助詞를 ga にしてしまうという誤用が起こる。

- (28) 誤 *그 수업 (내용)이 몰랐습니다. (学生)⁹

geu sueop (naeyong)-i mollasseumnida.

その授業の(内容)がわかりませんでした。

正 →수업 (내용)을 몰랐습니다.

これらの構文は品詞の違いから格助詞の誤用が起こる典型的なものであると言えそうだ。

7. 「好きだ」・「嫌いだ」と「좋아하다 joahada」・「싫어하다 sireohada」

「好きだ」・「嫌いだ」は形容動詞¹⁰であり、ガ格をとるのが原則である¹²。

- (29) 果物の中でメロンが好きだ。

- (30) 花子が好きだ。

一方、朝鮮語の「좋아하다」・「싫어하다」は他動詞であり、日本語のヲ格に相当する를 reul をとる。

- (31) 저는 불고기를 좋아합니다. (朝)
 jeo-neun bulgogi-rul joahamnida.
 私 は プルコギ が 好きです。
- (32) 일반적으로 사람들은 폭력적인 행동과 말을 싫어한다. (延)
 Ilbanjeok-euro saramdeul-ern pongnyeokjeogin haengdong-gwa mal-erul sireohanda.
 一般的に 人は 暴力的な 行動と 言葉が 嫌いである。

このようにほぼ同じ意味の構文を表す述語の品詞が異なるため、日本語のガ格による母語干渉から朝鮮語の方も ga にしてしまう、というのが、この構文における主な誤用の原因であると考えられる。以下の例 (33) が誤用の例である。

- (33) 誤 *음악은 Japanese pops가 좋아하고 전차 안에서 듣는다. (學生)
 eumak-eun Japanese pops-ga joahago.
 音楽は Japanese pops が好きで電車の中で聞く。
 正 → Japanese pops를 좋아하고.
- (34) 誤 *난 자연이 좋아하니까 대학교에서 자연에 대해서 공부한다고 생각하고 있었다.¹² (學生)
 私は自然が好きなので大学で自然について勉強すると(しようと)考えていた。
 正 → 난 자연을 좋아하니까.

この例では、それぞれ「音楽はジャパニーズポップスが好きで電車の中で聴く」、「私は自然が好きだから大学で自然について勉強すると(しようと)考えていた」ということを言いたかったのだが、「를」とすべきところを「가」と誤用している。

また、「좋아하다」・「싫어하다」は形容詞「좋다 joda」・「싫다 silda」から派生したものであり、以下のような格標示と意味を持っている。

- (35) -를 좋아하다, 싫어하다 「―が好きだ(―を好む), 嫌いだ(―を嫌う)」

(36) -가 좋다, 싫다

「—がよい, —が嫌だ」¹³

これらは、品詞が違うため格助詞も異なるのだが、派生語であるが故に意味も発音も似ているため、学習者が混用するということも考えられる。

以上のことから、この構文における格助詞の誤用は、言語間での品詞の違い、また朝鮮語の中での派生語間での混用から起きていると言える。

8. まとめ

以上の考察から、日本語では、願望表現、可能表現、認知構文、好き嫌いを表す構文などで対象を示す格助詞がガ格とヲ格の両方を取りうる、いわゆる格助詞のゆれが多く見られたのに対して、朝鮮語では願望表現でわずかに格助詞のゆれが見られた以外には、同様の現象はほとんど見られなかった。また願望表現においても、日本語に比べると格助詞가 ga の許容度は低いように思われる。特に述語が複合的な構文では日本語は述語を構成する品詞によって両方の格助詞が現れ得たが、朝鮮語は元の格助詞を保持する傾向が強いと思われる。これらの理由から、日本語母語を母語とする朝鮮語学習者は本来가 ga ではなく을 reul をとるべき構文についても、日本語の母語干渉から가 ga を用いるという誤用を起こすということがわかった。

今後の課題としては誤用のデータをさらに収集し、同じ構文でも誤用の現れ方に違いがあるのかなど、詳細な分析が必要である。

本稿は、2006年9月14日の「神奈川大学対照言語研究会」で発表した原稿を加筆・修正したものである。国広哲弥先生と高木南欧子先生をはじめとする諸先生に貴重な意見をいただいたことを記して謝意を表する。

注

- 1 朝鮮語のローマ字表記は2000年7月7日大韓民国文化観光部告示第2000-8号に規定されたものを使用する。
- 2 日本語のヲ格に対応する朝鮮語の格助詞을 reul は、語末が子音である語につく場合は을 eul、母音である語につく場合は을 reul と2つの形態があるが、本稿では을 reul を代表形とする。同様に、日本語のガ格に対応する格助詞も語末が子音である語につく場合は이 i、母音である語につく場合は가 ga という形態を持つが、가 ga を代表形とする。

- 3 油谷 (2006) においても、「初級段階を終えて中級の段階まで達すると、日本語とは異なる構造を持つ韓国語を習得することを要求されるようになる。これは中学時代から学んできた英語ではごく当然のことなのであるが、韓国語の場合、初級段階で日本語直訳式の韓国語に置き換えてもある程度通用してきたためにとまどいを覚えるというのが正直な感想ではないだろうか。」として、言語構造が似ているが故に、違う部分の難しさがあるということを指摘している。
- 4 つまり、「たい」が付くことによって述語全体が状態性を帯びたとみることができる。井島 (1991: 151) では、「さまざまな深層格をガ格にしうるのは(一項であることの多い) 状態性述語の特徴である」としている。
- 5 「～たくなる」のように「たい」の後に「なる」が接続した形式でも日本語では「なる」に関係なくガ格、ヲ格両方が現れるが、朝鮮語では「なる」にあたる「-아/어 지다」が付くと自動詞述語として가 gaをとるようになる。
- 6 可能動詞と自発動詞は形も同じであり、意味の境界もあいまいである。さらに形式的には③の可能動詞と④の可能助動詞「れる」「られる」は同じく分類することも可能であるが、ここでは現代の日本語において可能を表す動詞として定着しているものは可能動詞としたい。この点について国広哲弥先生、高木南欧子先生に貴重なご意見を頂いた。
- 7 朴 (1997: 140) でヲ格をとる「できる」の用例が挙げられている。
 「ノリエガは中南米に関するアメリカの暗号データの傍受や中継ヲできる絶好の立場にあり……。」
 「もし、語学者として、ある方面のことヲ一つよくできる場合に一段と将棋の段のように勘定すれば、本居宣長は語学だけで四段か五段ぐらいにあたります。」
 これらの例は誤用とはいえないものの、これらの例を用いて「できる」がヲ格をとるという一般化は難しいと思われる。
- 8 この構文はヲ格とのゆれはほとんどないと思われるが、朴 (1997: 150) では「分かる」をガ格・ヲ格を共にとる動詞として分類し、その例も挙げている。
 「小学2・3年生のアタマは、いろんな“知りたい”でいっぱい。こんな気持ちヲわかってくれる先生が、家にもいるなんて、すてきだね。」
 (朝日 1992. 2. 19: 16, 朴 1997: 150)
 この例については、逆にガ格に置き換えると不自然に感じられるが「わかる」に「てくれる」という受益を表す動詞が後続しており、「くれる」が要求する格助詞からヲ格が出てきたとも考えられる。そのため以下のように、「わかってくれる」の部分を「わかる」に換えるとガ格がより自然になる。
 「小学2・3年生のアタマは、いろんな“知りたい”でいっぱい。こんな気持ちガわかる先生が、家にもいるなんて、すてきだね。」

データが少ないためはっきりしたことは言えないが、いずれにせよ「わかる」は対象のガ格をとるのが一般的な用法であるといえる。

- 9 誤用例の中の括弧内は筆者が補ったものである。
- 10 学校文法以外において、形容詞に分類される場合もある。また日本語教育などではナ形容詞という名称も用いられる。益岡・仁田・郡司・金水(1997: 159) 参照。
- 11 実際の用例では他動詞のようにヲ格をとる例が見られる。
 「この子、きっと伸子さんを好きなんだわ。」(女社長)
 「この人が毎日ここに帰ってくるのは意志が強いせいであって、私を好きだからじゃないかもしれないって… (略)」(泣かない)
 形容動詞である、「好きだ」「嫌いだ」がこのような他動詞的な格標示を見せるといふ現象の背景には、他動詞「好む」「嫌う」との意味の類似性からヲ格が意味的に違和感なく使われるということが考えられる。また補語と主語との混同を避け、述語の対象であるということを明示するためにヲ格を選択するということも考えられ、これは特に補語の名詞句が有情物である場合に顕著である。ただし本来形容動詞である「好き」が原則的にガ格をとるということに変わりはなく、ヲ格をとるのは周辺的な用法といえそうである。
- 12 波線部分は朝鮮語の表現としては不自然であるが、学生が書いたものをそのまま掲載したものである。
- 13 「좋다」「싫다」が「好きだ」「嫌いだ」の意味で用いられる場合、何かと比較するというニュアンスが入る。

参考文献

- 庵功雄(1995)「ガ～シタイとヲ～シタイ—格標示のゆれに関する一考察—」『日本語教育』86号, pp. 52-64, 日本語教育学会.
- 井島正博(1991/2000)「可能文の多層的分析」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版.
- 大江三郎(1973)「願望のタイの前でのヲとガの交替」『文学研究』70, pp. 1-11, 九州大学文学部紀要.
- 柴谷方良(1978)『日本語の分析』大修館書店.
- 時枝誠紀(1941/1965)『国語學原論』岩波書店.
- 永原歩(1999)『日本語の韓国語の格助詞「ガとヲ」, 「이/가と을/를」の交替現象をめぐって』東京大学大学院, 修士論文.
- 益岡隆志(1987/2000)『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版.
- 益岡隆志・田窪行則(1992/1996)『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版.
- 朴在権(1997)『現代日本語・韓国語の格助詞の比較研究』勉誠社.
- 油谷幸利(2006a)『間違いやすい韓国語 100』白帝社.
- 油谷幸利(2006b)『日韓対照言語学入門』白帝社.

고석주 (2004) 『현대 한국어 조사의 연구—‘격 개념’과 조사 ‘-가’와 ‘-를’을 중심으로—』 연세대학교 언어정보연구원, 한국문화사.
 서정수 (1994) 『국어문법』 뿌리깊은나무.

用例出典

泣かない『泣かない子供』江國香織.
 世界『世界のハードボイルドワンダーランド』村上春樹.
 外国『外国人のための韓国語文法』延世大学校出版部.
 文型『日本語文型辞典』グループジャマシイ.
 大『大辞林』.
 若き『若き数学者のアメリカ』藤原正彦.
 문법『외국인을 위한 한국어문법 2』.
 연『연세한국어사전』.
 외국어『외국어를 알면 세계가 좁다』최정화.
 学生 学生誤用例 (2004-2006 年度)